ベッドサイドウエルネスシステムの がん患者への適用

大須賀美恵子*
小山博史**

要　旨

病床にある患者や高齢者の心と身体のケアを支援しQOL（Quality of Life：生活の質）向上に貢献することを目標に，ベッドサイドウエルネスシステムを開発した。メンタルケアを主目的とし，早期離床，廃用性衰退の防止の効果も同時にねらうものである。試作システムを用いて健常者による評価実験を行った後，改良版システムが開発された。

医療機器申請を受け，国立がんセンターの倫理委員会の承認を得て，効果検証を目指した臨床応用に着手した。第１段階の適用は，インフォームドコンセントを得た女性がん患者22名を対象に行った。治療前後の感情状態評定では，ほとんどの例で肯定的感情の増加，否定的感情の減少，けん（倦）怠感スケールの減少，全身的な疲労感の改善が見られた。治療後の質問紙では，多くの患者に治療に対する満足が得られ，１／４に疲労が生じた。約３／４の患者が治療効果に期待し，治療の継続を期待した。治療前に痛みのあった８例中６例で痛みが緩和された。

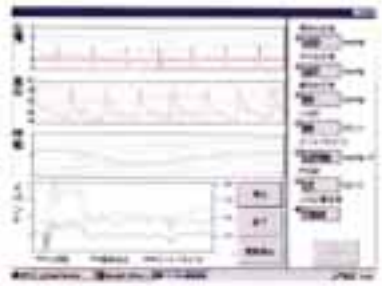
今回の適用により，このシステムのがん緩和ケアへの有効性の一端が伺えた。今後，効果検証を進めるとともに，疲労を起こさないシステムへの更なる改良を行いたい（この研究の一部はがん克服新10か年戦略事業の支援を受けて行われた）。

■ベッドサイドウエルネスシステム全景

■主観評価入力装置

■３面映像提示例

■生理データモニタリング



ベッドサイドウエルネスシステム

ベッドサイドウエルネスシステムは，ベッドの上でひざ（膝）の曲げ延ばしと足首の回転運動ができる足踏み装置と，３面液晶ディスプレイによる広画角映像，鳥の声やせせらぎ，木々のそよぐ音，香りを乗せた微風などによって自然の中を散歩しているような感覚を与える感覚統合VR提示システムからなる。効果検証には，患者の主観評価と安全確保のためにもモニタリングしている生理データを用いる。

*三菱電機㈱先端技術総合研究所（工博）　**国立がんセンター中央病院（医博）